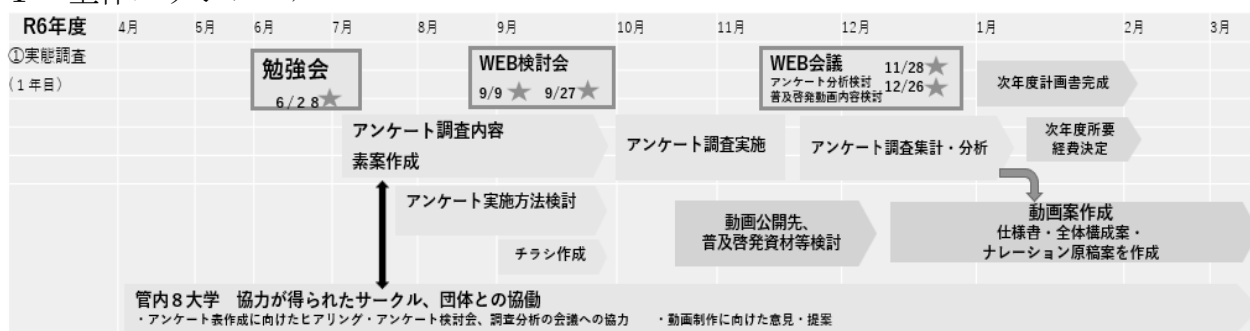


Z世代に向けた性感染症の予防行動推進事業	
北多摩北部保健医療圏	
実施年度	開始 令和 6 年度 終了(予定) 令和 7 年度
背景	東京都内の梅毒の報告数は、例年1,500件前後で推移していたが、令和3年2,451件、令和4年3,677件、令和5年は3,699件と増加している。年齢階級別・性別報告数では、男性は20～50歳代、女性は20歳代が中心で、Z世代を含む若い世代を中心に広がっている。 令和5年度に管内大学に感染症普及啓発を実施した際、大学職員から「性行為により性感染症に罹患することを知らない学生もいる」との声も聞かれ、適切な予防行動がとれていないことが推測された。また、当保健所での性感染症検査では、受検者は50代以上が約半数を占め、検査ターゲット層が受検につながない現状がある。そのため、Z世代への効果的な普及啓発の検討・実施が必要である。
目標	【全体目標】 ・Z世代が性感染症を身近な課題と捉え、正しい知識の習得や予防行動・受検行動につながることを目指す。 【令和6年度目標】 ・Z世代へのヒアリング調査とアンケート調査により、性感染症に関する認識や予防行動、検査や受診に影響する要因について実態を把握する。 ・実施したアンケート調査結果を分析の上取りまとめ、性感染症に関する普及啓発動画制作に向け動画内容を検討する。
事業内容	【令和6年度】 ○Z世代の性感染症の予防行動に関する情報収集 ・ヒアリング調査：受けてきた性教育、学習指導要領等に関して管内大学学生団体2団体に実施。 ・関係者向け研修：Z世代向けに性感染症普及啓発活動を実施している講師より、実際に行っている活動、Z世代の特徴について関係者向け(管内市役所健康課職員、保健所職員)に研修実施。 ○実態調査(令和6年度) ・アンケート調査：助言者や管内大学学生団体と協働しアンケート調査票を作成し管内6大学の学生・当保健所性感染症検査受検者を対象に実施。 ・ヒアリング調査：Z世代に受け入れられやすい保健所性感染症検査の新たな周知方法について管内大学学生団体2団体に実施。 ○普及啓発内容の検討 アンケート調査結果を分析し、性感染症に関する普及啓発動画内容を助言者及び管内大学学生3団体と検討した。
評価	助言者や学生団体の意見を取り入れながら、アンケート調査の質問票の作成、アンケート分析、動画案の検討を実施した。また、管内の6大学で実施したアンケート調査を通じて、性感染症に対する認識や予防行動、対処行動、検査や受診に影響する要因が明らかになった。その過程で、管内6大学保健部門の職員と連携ができ、啓発活動の重要性の理解と顔の見える関係性を構築することができた。また、普及啓発動画案を学生団体や助言者と意見交換を行い検討した。 令和7年度には普及啓発動画を制作し、学生団体や助言者、管内大学及び高校や市役所等と連携しながら性感染症検査に関する普及啓発活動を実施していく。
問合せ先	多摩小平保健所 保健対策課 感染症対策担当 電話 042-450-3111 ファクシミリ 042-450-3261 E-mail S1153503@section.metro.tokyo.jp

1 全体スケジュール



2 令和6年度の事業実績

(1) 性感染症に関する関係者向け勉強会の開催

【目的】

Z世代への効果的な性感染症予防行動に関する普及啓発に向けた実態調査を行っていくうえで、Z世代の性行動も含めた特徴や受けてきた性教育について知識を得ることを目的に勉強会を実施。

【日時】 令和6年6月28日（金曜日） 午前9時45分から午前11時45分まで

【会場】 東京都多摩小平保健所 講堂

【出席】 26名 小平圏域4市（小平市、清瀬市、東村山市、西東京市）の助産師・保健師・社会福祉士・ティーンズ支援ワーカー、多摩立川保健所の保健師※、多摩小平保健所の保健師・事務職員※
※オブザーバーとして参加

【内容】

- ① 「管内の梅毒発生動向とZ世代における性感染症普及啓発推進事業」 について説明
- ② 講演：「Z世代の性行動の特徴とこれまで受けてきた性教育について」
講師：国立看護大学校成人看護学 藤澤 雄太先生
- ③ 情報共有・意見交換
 - ア 各所属の性感染症・性教育に関する活動内容や課題
 - イ 母子保健からみた若年妊婦の特徴

多摩小平保健所保健対策課感染症対策担当職員（保健師）より、課題別地域保健医療推進プランの事業や管内の梅毒の概況について説明した。また、学校現場等で性教育を行っている講師より、中学・高校における性教育の現状と課題、市中で梅毒がまん延している要因について講師が考えた仮説をもとにZ世代女性の性行動や心理についての説明があった。中学・高校における性教育の現状と課題では、SNS等から性に関する情報を容易に得られる一方、学校における性教育では、時間の不足、教員の負担、包括的性教育の導入の遅れ等により正しい情報が得られていないこと、また、一部のZ世代女性では、推し活やイベント・グッズ費用に充てたい動機から短時間で収入を得るため、リスクな性行動（不特定多数、避妊具なしの性行為等）を取る可能性があるといった仮説を把握することができた。

今回の勉強会を通し、性感染症に関する普及啓発の重要性を共有することができた。そして、性感染症・健康の話題を前面に出しすぎるとハイリスク層には届きにくくなる等対象者側の情報選択に関する講義もあり、普及啓発動画作成の際は、伝えたい内容は押さえつつもZ世代が興味を引くような内容にするよう意識していく必要があることを学んだ。



【勉強会の様子】

(2) アンケート調査内容検討会

①第一回アンケート調査内容検討会

【日時】令和6年9月9日(月) 15時～16時

【方法】WEB開催

【参加】国立看護大学校藤澤先生、国立看護大学校学生団体、津田塾大学学生団体

②第二回アンケート調査内容検討会

【日時】令和6年9月27日(月) 10時～11時

【方法】WEB開催

【参加】国立看護大学校藤澤先生、国立看護大学校学生団体、津田塾大学学生団体

保健所より事業概要、アンケート調査概要について説明し、アンケート調査の設問に関して意見交換を行った。実際に学生団体と意見交換を行うことで、大学生が答えやすい設問か、各設問の趣旨が適切に理解されるか十分に検討する機会となった。また、アンケートの回答率を向上させるための方策についても、意見交換の実施により、効果的な実施方法の検討ができた。

(3) 実態調査の実施 (アンケート調査やヒアリング調査)

【目的】

性感染症検査受検者と検査を受検していない一般の若年層の性感染症についての知識、予防行動についての認識を比較し、受診や受検といった行動に結びつく要因について明確にし、次年度の普及啓発活動(当該事業で予定されている動画制作)に活かしていくことを目的にアンケート調査を実施した。

【調査期間】

令和6年10月上旬から令和6年11月中旬まで

【調査対象】

①多摩小平保健所性感染症検査受検者

②※管内6大学の大学生

(※白梅大学、武蔵野美術大学、武蔵野大学、嘉悦大学、津田塾大学、国立看護大学校)

【調査方法】

WEBアンケートにアクセスできるQRコード付きチラシを配布し、Webフォームにて回答を回収。アンケート協力者にボールペン又はコンドーム入りフライヤー(ティッシュ付き)を配布。



【回答状況】

対象者	配布数	回答数	回答率
①保健所検査受検者	62枚	38件	61.3%
②管内6大学の大学生	374枚	190件	50.8%

※R6年2月より保健所性感染症検査のWEB申し込みの開始及びクラミジア・淋菌検査開始があった。

同時に検査受検者のうち15歳～29歳が41.7%となり、Z世代の受検者の増加が見られた。

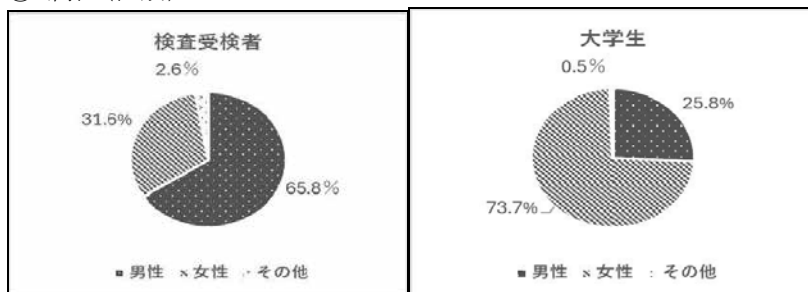
申し込み方法の変更と、若年者に関心の高いクラミジア検査が追加になったことが影響していると推察されるが、因果関係を証明するまでには至っていない。

【アンケート内容】

- ・性感染症や性感染症検査に関する知識や認知度
- ・性行為における性感染症の予防行動や予防意識について
- ・受診や受検等の行動を促す要因(行動変容)について

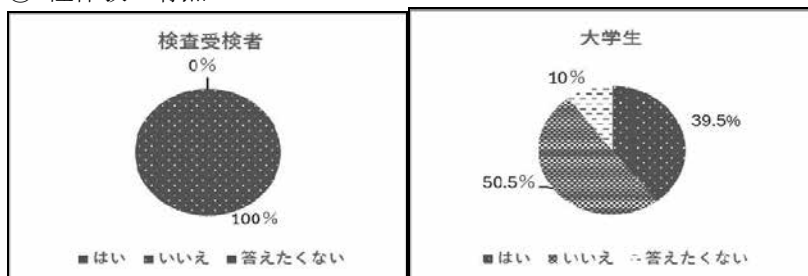
【調査結果】

① 属性(性別)



保健所検査受検者の回答者は、男性が 25 人(65.8%)、女性 12 人(31.6%)。また、管内 6 大学の大学生は、男性 49 人(25.8%)、女性 140 人(73.7%)であった。

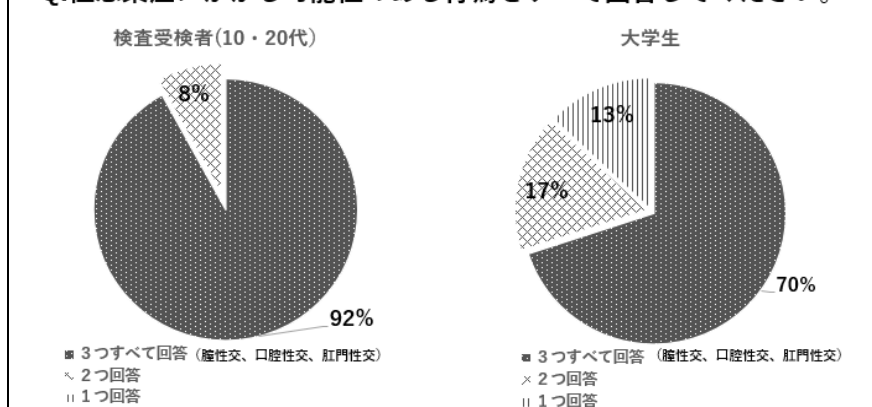
② 性体験の有無



保健所検査受検者は全員が「はい」と回答した一方、管内 6 大学の大学生は、「はい」と回答した者は 75 人(39.5%)、「いいえ」と回答した者は 96 人(50.5%)であった。

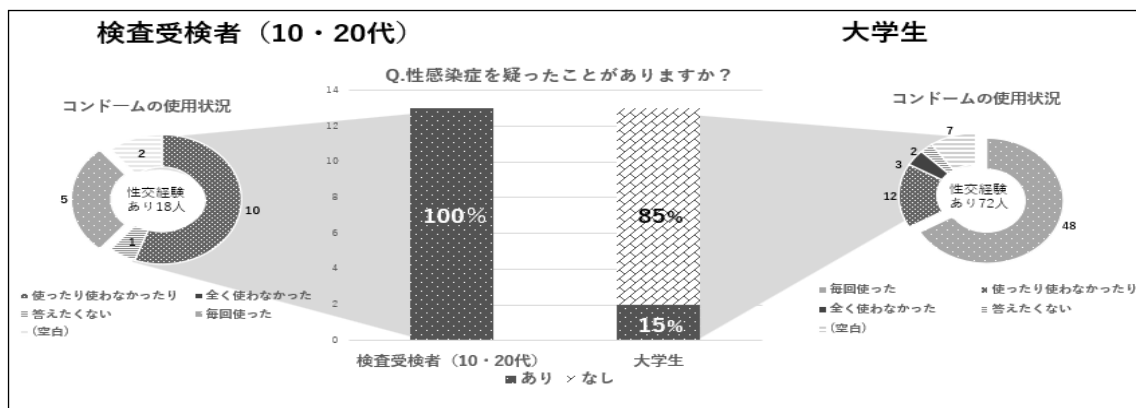
③ 知識について

Q.性感染症にかかる可能性のある行為をすべて回答してください。



性感染症にかかる可能性のある性行為について、膣性交、口腔性交、肛門性交の選択肢を提示し、すべての選択肢を選択できた人は、検査受験者では、92%、大学生では 70%であった。

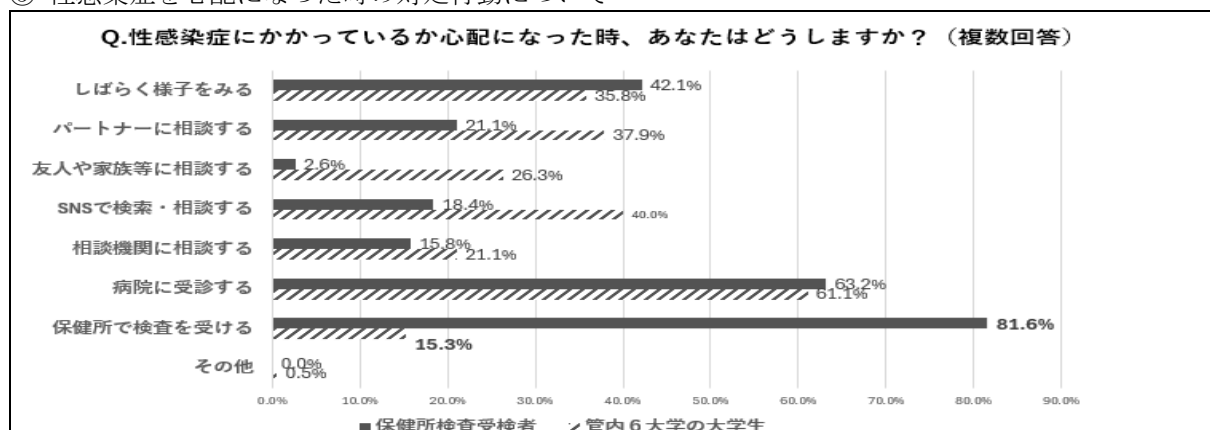
④ 危機感について(コンドーム使用状況と性感染症を疑った経験の有無の関連)



コンドームを「全く使わなかった」・「使ったり使わなかったり」・「答えたくない」・「空白」と回答（「毎回使用した」を除く）した性交経験者のうち、性感染症を疑ったことがあるか関連を見た。

「毎回使用した」方を除く者の中で性感染症を疑ったことがある者は、検査受検者(10代・20代)では100%であったが、大学生では15%と、性感染症を疑ったことがある人の割合が低い結果となった。

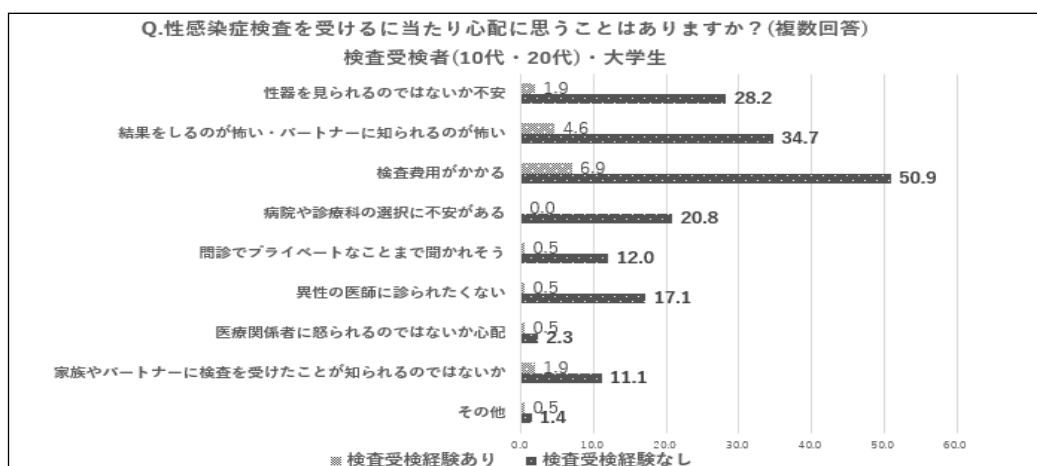
⑤ 性感染症を心配になった時の対処行動について



性感染症にかかっているか心配になった時、「保健所で検査を受ける」と回答をした検査受検者は81.6%であったが、大学生では15.3%と他の選択肢の中で最も最も少ない割合となった。

大学生で最も多い回答が「病院に受診する」63.2%、次いで「しばらく様子を見る」が42.1%であった。

⑥ 性感染症検査について



検査を受けるに当たり心配に思うことでは、検査受検者と比較して検査未受検者では、「検査費用がかかる」50.9%と最も高く、次いで「結果を知るのが怖い、パートナーに知られるのが怖い」34.7%、「性器を見られるのではないかと不安」28.2%であった。

(4) アンケート分析・普及啓発動画内容検討会

【日時】令和6年11月28日(月) 10時～11時

令和6年12月26日(月) 16時30分～17時30分

【方法】WEB開催

【参加】国立看護大学校藤澤先生、国立看護大学校学生団体、津田塾大学学生団体

保健所からアンケート調査の集計結果と分析結果を説明。助言者及び学生団体との意見交換を通じて、より実態に即した分析を深めることができた。また、動画内容の検討では、大学生より「性感染症は身近な病気ではない」「検査を受ける段取りが分からないので、具体的な検査の流れを知れるとよい」等の意見があり、性感染症に関する知識及び罹患可能性、検査の具体的な流れ等動画内容に盛り込む内容を検討する貴重な機会となった。

【アンケート分析結果】

- アンケート調査結果④より、検査受検者と比較して、大学生は性感染症に罹患する可能性のある行為について理解が不足していたり、自分の性行動と性感染症の罹患の可能性について関連付けができていない人がいると考えられた。
- アンケート調査結果⑤より、検査受検者と比較して大学生は、病院に受診をすることは知識として認識しているが、保健所で検査を受けると回答した割合が低く、保健所で実施している性感染症検査の認知度が低いと考えられた。
- アンケート調査結果⑥より、検査受検者と比較して検査未受検者では、検査費用や性器を見られることへの不安、他者に結果を知られてしまうこと等に対し不安を抱えており、検査について知っていれば不安に思わないことまで不安に感じていると考えられた。

【普及啓発動画内容】

- 性行為の機会があれば誰でも感染する可能性があることを強調する必要がある。
- 性感染症の罹患可能性・重大性を伝え、自分事として捉えられるように内容を工夫する。
- 保健所で無料匿名の性感染症検査の認知度を上げる必要性がある。
- 性感染症検査について不安を抱いている若者が多いことから、検査の具体的な流れを示し、受検のハードルを下げ安心感を持たせるように工夫する必要がある。

(5) 普及啓発動画構成案の検討

【日時】令和7年1月～3月(月2回程度)

【方法】WEB開催

【参加者】国立看護大学校藤澤先生、国立看護大学校学生団体、津田塾大学学生団体、武蔵野大学学生団体

助言者及び管内大学学生3団体と協働し動画内容の意見聴取を行いながら、性感染症普及啓発動画の構成案、ナレーション原稿案を制作。大学生より「同じ目線に立ち共感を引き出せるようなメッセージがよい」「インパクトがあり興味を引き付ける導入がほしい」等の意見があり、Z世代に受け入れやすいメッセージや動画構成案を検討する貴重な機会となった。

3 次年度計画

- 性感染症に関する普及啓発動画を制作し、Z世代が頻繁に使用する媒体(YouTubeやSNS等)を用いて広く啓発する。
- 動画完成後、大学・高校・市健康主管課等動画を用いての普及啓発に協力いただける団体を対象に報告会を実施予定。
- 自主媒体(保健所HP、東京動画等)で動画を公開するとともに、協力が得られた管内大学の学園祭・管内大学・高校・公共交通機関・商業施設等に動画のQRコードつきのステッカーを配布し広く若者に啓発する。
- 動画公開後、アンケートを行い、動画視聴後の性感染症に関する認識の変容等について調査し、事業評価を行う。